

若林栄四の四半期レポート

若林栄四 (2009年1月)

為替相場

1. ドル/円

2007年6月22日の124円14銭の天井から測った月足のトレーディングボックスの下限は89-90円である。したがって、89円以下のドル/円はやりすぎであったと考えている。

月足で見て1971年8月の360円と1985年2月の263円を結んだ線は93円に位置している。また1995年4月のドル安値79円75銭からの月足トレーディングゾーンの2周目のサポートはやはり93円に位置している。

相場観では相場はそのうちにこの93円の月足を回復して、100円を超えるレベルに戻ってくると考えている。

その前に週足で92円を回復してくることが大事で、そうなると、昨年8月15日の高値110円67銭からのボックス圏内に復帰する。

12月17日の安値87円13銭は、3月17日の安値95円77銭からのサイクルボトムであった。サイクルを走りきるのに要した時間は39週である。

8月15日の戻り高値110円67銭から4ヶ月で23円のドル下げエネルギーを費やした相場であるので、一旦底を見ると、予想以上の戻りを演じるはずである。とりあえずは96-98円、さらには、52週移動平均102円あたりが目標となりそうである。

LongTerm Japanese yen-Monthly 12/31/2008



2. ユーロ/ドル

この相場の構造は、2000年10月の0.8228の大底からの月足トレーディングゾーンの中での動きとなっている。2002年にこのゾーンの間線を超えてからは、中間線が月足サポートとして機能してきた。

2002年以降この中間線を切ったのは今回を含めて3度目である。過去2回は2003年9月の1.0765、と2005年11月の1.1640であり、いずれも大きな底を形成後、中間線を回復してきている。

今回は中間線2009年1月現在1.32に位置している。

10月、11月と中間線を下回る1.27近辺の月足の位置だったが、12月末には1.39とこれを

回復して、再び上昇路線に復帰した。と同時に、10月28日の安値1.2329が複数年単位での底であったことが確認された。

過去の例ではボトムを見ると少なくとも月足のゾーンの頂点—2009年1月現在で1.51を見に行くことになりそうである。

ゾーン中間線の1.32が月足のサポートということであり、それ以下は買いのチャンスを提供してくれることになりそうである。

目先的には、12月18日のスパイクトップ1.4720は2000年10月26日の0.8228の大底からの大事な424週目に出た相場であり、大事な高値を見たと考えている。

したがって相場はどちらかといえば弱含み、1.6040の天井を見た昨年7月15日からの30週目に当たる2月中旬に向けて下値を見に行く流れではないかと見ている。

引き付けて、ロングメイク（ユーロ買い）が正解。

EUR/USD-Monthly 12/31/2008



3. ユーロ/円

この相場の構造は、月足で見て、2000年10月の底値88円93銭からのトレーディングゾーンの中での上下動となっている。

2009年1月現在のゾーン下限は121円、上限は158円、中間点は140円である。

10月から12月の混乱の中で113円台までの下値をみたが、最終的に月足では121円を切っていない。したがって上記の構造はソリッドである。ということは、日柄は別にして、下限をやった相場は上限をやりに行くという経験則を考える必要がある。

少なくとも中間点の140円まではまず確実に到達するはずである。最終的にはもう一度160円台というのも有り得ると考えている。

月足のサポートが121円ということは、125円前後の相場は140円のインテリムターゲットとの、リスク・リワードで見てグッドチャンスである。※

中期的に見れば昨年7月23日の天井169円99銭からの戻り高値の日柄は18.7ヶ月—81週後の2010年2月となる。

目先は2月—3月に向けて131—135円ぐらいのチャンスがありそうである。

※当面のターゲットを140円とすれば、現在の125円は下のリスクは4円、上は15円の利益が見込めるとい意味合いとなります。

EUR/YEN-Monthly 12/31/2008



4.豪ドル/円

昨年7月23日の高値104円50銭から、10月24日には55円12銭までの暴落となった。上記の高値からのペンタゴンで測った週足一相場の限界は57円前後であり、週足最安値58円70銭から見て相場は丁度良いところまで下がったといえる。

別の言い方をすると10月24日の55円12銭は底であった。

したがって、基本は買いである。

底値から測った週足のサポートは62円前後にある。目先は底から3ヶ月目の1月23日に終わる週に向けての上昇か。

2007年7月と10月のダブルトップ107円ハイから測ると、69-70円が一つの壁となっており、上値を抑えて来そうである。

しかし最終的には2000年10月安値55円52銭からの週足黄金分割レジスタンスである84-85円に向けての戻りは可能である。

そのためにはこの70円の壁を抜く必要がある。

遅くとも4月には70円を上を抜いて行くはずである。

AudYen-Monthly 12/31/2008



5.NZ ドル/円

2007年7月24日の天井97円78銭から月足で新値6手目が、12月5日の安値47円80銭である。新値8手まで後2手ほど安値更新の可能性はある。

しかし2000年10月18日の大底41円94銭からの424週目の12月5日に底を付けていることは重大な底が入ったとも考えられる。それほどでもなくても、普通30週-7ヶ月程度は持つ底であったのではないか。

上記の大底からの月足18度黄金分割線は57円50銭に位置して、戻りを牽制している。一方で月足50円は天井から見て、強いサポートになっており、50円割れは買いのチャンスに見える。

目先は天井からの81週目の戻り高値の日柄2月中旬に向けて相場戻り高を演じる構えである。

最終的には2010年初めにに向けて、70円狙いか。

NZDJPY-Monthly 12/31/2008



6.英ポンド/円

12月30日に130円割れを見て若干の反騰に転じている。

ペンタゴンで測った天井251円13銭からの週足一相場の下限は132円50銭で見事にそこで相場は下げ止まっている。従ってこの相場は大きな底を見た可能性もある。

しかし天井からの月足で見て、新値7手ともう一つやり足りていない。

2007年7月20日の天井からの81週目が2月中旬にくるので、その時点まで戻り高をやりに行く構えと見る。天井からの高さで見ると155円辺りが戻りの限度のように見える。



7.ZAR/円(南アフリカランド/円)

暴落した高金利通貨の中でも、一番悪かったのが英ポンドとランドであった。英ポンドはチャートの形はやや良くなりつつあるが、このランドは悪いままである。最悪の通貨になってしまった。それでも週足 9 円を固めつつあり、徐々に上値トライの形になりつつある。この相場も 2006 年 2 月の高値 19 円 75 銭からの一相場の下限 8 円を見ており、これ以上の下落は、少なくとも今年はないのではないと思われる。

19 円 75 銭の高値から見て、月足が 10 円 20 銭を超えてくると、もう一段の上昇 12 円-13 円が期待できそうである。

株式相場

8. 日経 225

2007 年 2 月 26 日の高値 18,300 円からみて、月足の安値更新は 10 月 28 日の安値 6,994 円で 7 手となっている。8 手まで達成すると、反転上昇に確信が持てるが、7 手ではほかのポイントが底打ちを示唆しないと、未だ確信度は低い。

しかし、それ以外のポイントではほとんど間違いなく、相場底打ちの状況証拠がそろっている。

10 月、11 月、12 月と月足では 3 ヶ月連続で大事な 8,500 円レベルを維持している。

また上記の天井からの月足のトレーディングボックスの下限にもタッチしていることから、ボックス上限への動きとなるものと考えている。

10 月 28 日の底値から 8 週間を経過しており、9 週間を超えて新高値、すなわち 11 月 5 日の 9,521 円の戻り高値を抜くと、はっきり強気相場となろう。

強気相場に入った場合は、2007 年 6 月 20 日の 2 番天井 18,297 円からのチャートパターンにのっとなって、ターゲットが設定できそうである。

それによると、2 番天井からの 36 度の黄金分割線が昨年 10 月 11 日の戻り高値 17,488 円、と今年 6 月 6 日の高値 14,601 円を規定していることから、この相場はミニマムその 36 度線を試しに行く動きのように見える。

となると、とりあえずのターゲットは 11,500 円-12,000 円となろう。

月足で 8,500 円を切ってくると、強気相場観が揺らぐが、6,994 円が底値であったとの認識

は変わらない。

月足の 9,800－9,900 円は前回底 2003 年 4 月の 7,604 円からの月足 18 度のレジスタンスが位置しており、強いレジスタンスとして機能しそうである。

この相場は基本的には 2010 年 1－2 月まで上昇と見ている。



9. 米国株

○ DJIA (ダウジョーンズ工業平均株価 30 種)

NY ダウは、2002 年 10 月 10 日の大底 7,197 ドルからの黄金分割月足サポートが 8,500 ドル近辺にあり、10 月から 12 月にかけての下押し場面でもこれを守りきっている。

相場は週足で昨年 8 月 11 日の戻り高値 11,867 ドルからの 72 度黄金分割線 8,900 ドルを上抜いてきている。

2007 年 10 月 11 日の天井 14,198 ドルからの、月足トレーディングゾーンの第 3 ティアーである 8,900 ドルを月足ベースで上に抜いてくると、底打ちの確信度が強まり、相場上昇も加速するものと考えている。

基本的には強気である。

週足で見て上記 8 月 11 日の戻り高値 11,867 ドルからのトレーディングボックス下限に既にタッチしていることから、上限 9,700－800 ドルは第 1 ターゲット、昨年 5 月 19 日の戻り高値 13,136 ドルからの同じくボックス下限にもタッチしているので、第 2 ターゲットは 10,500－11,000 ドルの間に見える。

下値は月足で 8,500 ドルを割ってくると強気パターンが崩れるが、かといって弱気パターンになるわけでもない。11 月 21 日の安値 7,449 ドルは月足新値 7 手目であり、つぎの安値更新は 8 手目と打ち止めの確率が高い値ごろになるからである

NYDOW-Monthly 12/31/2008



○ NASDAQ 総合指数

2007年10月31日の天井2,861からの424日目は昨年末に到来、相場も大事な1,600レベルを回復してきた。

これで、週足ベースでは、旧来のチャンネルの中に復帰した形になっており、11月21日の安値1,295は大きな底であったことがほぼ確認できた。

5月19日の戻り高値2,551からの週足黄金分割レジスタンス1,550を上を抜いたので基本的には、強気の路線で臨みたい。

天井から81週目の5月あたりに向けて1,900-2,000というチャンネル中間点へ向けての戻り相場が期待できそうである。

NASDAQ-Monthly 12/31/2008



債券相場

10. 日本国債 (JGB) 先物相場

この相場の長期的な動きの基本は、1999年2月3日の底値125円70銭を起点にした月足トレーディングゾーンの中で動いていることである。

昨年6月13日の安値132円05銭はこのゾーンの下限132円80銭を試しに行った動きであり、その後6月末には月足ゾーンサポートの133円を回復している。

2009年1月現在月足のゾーンレジスタンスは140円80銭に位置している。

昨年9月から12月の間に何度か140円台を見たが、それ以上の相場上昇とはなっていない。もう一段の相場上昇は、2003年6月11日の大天井145円28銭からの月足黄金分割レジスタンス-18度がやはり140円80銭近辺に位置していることから、なかなか難しい。

日柄は、2006年6月26日の安値130円84銭からの30ヶ月が昨年末、2007年6月13日の底値130円76銭からの81週目がやはり、昨年末となっていることから、上昇相場は一旦終了することが予想される。

5-6月に向けて相場下落、金利上昇が予想される。

しかし上記ゾーン下限が133-4円台にあり、強いサポートとなろう。

11. 米国債券 トレジャリーノート先物相場 (TREASURY NOTE FUTURE)

この相場は10月からの2ヶ月間で19フルポイントの大暴騰を演じた。その過程であらゆるテクニカルポイントをごぼう抜きしてきたが、さすがに12月18日130台で天井を見たものと考えられる。

というのは、2003年6月16日の当時の天井121.03から週足で上方に18度の黄金分割線を引くと、ほぼ130に位置しているからである。

日柄的にも、2006年6月26日の底値104.01からの30ヶ月131週が1月上旬、2007年6月13日の安値104.15からの81週目が12月下旬と重要日柄が集中する中で、スパイク天井を見たものと考えている。

天井を見た相場は反落に転じることが不可避である。

週足で見ると、2000年1月21日の底値93.21から計ると、トレーディングゾーンの2周目の頂点が124-125となっており、これ以上はやりすぎであったということになりそうである。となると、2010年初めまでの下げ相場の中で、1周目の頂点である116辺りが下げ相場のターゲットとなりそうである。

(以上)